

町の考え方を問う

一

般

質

問

9月定例会では教育問題・環境問題など、町政全般へ7人20項目にわたり質問しました。



芦ノ湖と富士山と鳥居

一般質問ではこのほか次の事項も質問しました。(順不同)

- 大規模災害が発生した場合の町の対応について
- 2008年開催予定の主要国首脳会議候補地について
- 土砂災害を防止するための施策について
- 観光消費が箱根町内の経済活動や町民生活に与える影響について
- 町有林の保全対策について
- 小・中学校の防火・防災対策の取り組みについて
- 広報誌の赤ちゃん誕生・おくやみ欄の廃止について
- 仮称・広報はこね姉妹版の発行について
- アスベスト対策に万全を
- 定住化対策について
- 中小企業者への融資制度の復活について
- 清光園跡地に温泉付多目的集会施設の建設について
- 観光振興について

学校教育

小中学校適正配置について

Q

次の3点について伺う。  
 1 湯本中学校の今年度入学予定児童の大幅な減少について、その実態と原因を町はどのように考えているか  
 2 小中学校適正配置を進めていくにあたり、どのように町民に知らせ理解を求め、統廃合の実現を目指していくのか  
 3 小中学校の適正配置実現の時期は、平成何年を目標にしているのか

A

1 点目について、湯本小学校卒業生26名のうち17名は湯本中学校に進学したが、7名が私立の中学校へ進学し、そして2名は転出をしている。  
 理由としては、小中学校施設適正規模配置計画に関する提言書において、中学校は箱根明星中学校1校とする案が出ているため、湯本地域の保護者の中には上へ上へ上がることに対する抵抗感があり、上へ上がるくらいなら小田原へ転出するとか、同校に通学すると小田原の学習塾へ行く時間がなくなるなどの意見や、湯本中学校は小規模であるため、やりたい部活がないとのことである。  
 2 点目について、この計画を推進するにあたっては、行政、学校はもとより保護者、地域住民が現実の利害を乗り越えて、心を一つにして新しい学校づくりを進めるといいう共通認識を持ち、一体となつて取り組むことが必要であると思っている。  
 そのためには、意思決定までのプロセスとしての住民参



箱根町立湯本中学校

加が重要であり、その声を尊重するために、10月以降町議会に説明をするとともに、保護者、地域住民を対象とした説明会を各地域で開催し、町民の合意を得ていきたいと考えている。  
 3 点目について、保護者の心配は切実であり、こうした状況を放置し、統廃合まで何年もかけていては、保護者の間に不信感や不協和音が広がってしまいかねない状況であるので、準備期間は可能な限り短縮をし、極力早く実施すべきだと考えている。  
 町民との合意形成が早期にできれば、小学校を平成19年度から、中学校については、平成20年度から実施していきたいと考えている。